

事務・事業名	在宅福祉事業費補助金
--------	------------

外部有識者のコメント

○事業の課題や問題点

- ・老人クラブでの補助による活動内容の実態把握（効果・地域差）が十分ではない。どのような活動が効果的なのかという点でのお金の配分ができていない。
- ・アウトカムが、老人クラブ数であり、その中身が見えない。
- ・老人クラブ活動が存在すること社会的意義についての議論がない。
- ・老人クラブの実態に合った支援となっているか、また、薄く広い支援（実効性の乏しい支援）になっているのではないか。
- ・老人クラブに加入している高齢者の割合が、高齢者全体の1割というのは根拠のある数字なのか。
- ・老人クラブ自体の活動継続・存続が危ぶまれている状況、地縁組織自体の意義が変わっている中で、なお「補助」が必要なのか。
- ・他の地域事業と関連するところがある。地域共生社会の実現に向けた活動をもつ地域組織は老人クラブだけではない。老人クラブというのは地域共生社会実現に向けてのツールでしかなく、他の適切なツールがあれば、そうしたツールとも連携をすることが適切である。協議会という点では、交通でも協議会がある。医療介護もある。農業集落についても同様の視点がある。内閣府・内閣官房での取り組みもある。老人クラブだけの視点ではなく、連携を見据えた広い視点での調査が重要ではないか。
- ・現状ではアウトプット指標しか設定されていないが、本事業に存在する健康、友愛、奉仕といった複数の目的に対応した客観的なアウトカム指標を設定し、総合的に評価することが可能なはずであり、適切ではない。
- ・フレイル予防のためには、体力づくり以上に人とのつながりが大切であるという研究もある。老人クラブの活動は、超高齢社会にとって重要であり、より多くの年代の人たちが参加しやすくなるようプログラムを工夫してほしい。そのためには、地域ごとの違いに配慮し、評価基準を多様化し、お金の使い方も柔軟化すると良いのではないか。例えば、お茶代であっても、人が集まることが重要であり、あまり厳しくお金の使徒を限定しない方が良いのではないか。
- ・加入者数が減少しており今後の持続可能性があるのか疑問なのではないか。その一方で、高齢者は多様な支援ニーズを持っていることから、地域に根ざした自律的組織は重要だとうと考える。老人クラブという名称自体が加入者が少ない障壁になっている面があり、名称を含めて現代的な意義を考え直す必要がある。老人クラブがある地域とない地域で不公平感があるのではないか。

○改善の手法や事業見直しの方向性

- ・老人クラブでの補助による活動内容を調査し、より効果的な活動に対して補助をすることを検討すべき。

- ・老人クラブの効果的な活動をアウトプットに、成果をアウトカムとして設定すべき。

- ・この補助金で得られる老人クラブの情報を有効活用し、ネットワーク強化、他の事業での効果を高めるための連携も考えることが有用である。

- ・地域支援事業（生活援助）とは財源や内容が違うという指摘であったが、「高齢者の生きがい」を高めるというアウトカム目標はある程度同じくすることを考えると、縦割りの予算ではなく、一体性のある事業を行うべきではないか。

- ・他の地域共生事業を他府省の枠を超えて作ることが必要である。地域住民は老人クラブだけで生きているのではなく、医療介護、交通、農村、様々な行政分野を横断して、地域創生を行う必要があるのではないか。

- ・たとえば健康維持の観点からはフレイルの発生率や発生時期などを比較することで本事業が高齢者自身の健康に寄与しているかを検討すべきである。

- ・老人クラブの評価に当たっては、例えば、警察、地域包括支援センター、消費生活センターなど、シニアと関わりが必要となる周辺組織の声を聞く必要があるのではないか。シニアに働きかけかけたいときに、グループ化している老人クラブに声をかけると人が集まるという声を聞いたことがある。すでに一定程度の集まりを構成している老人クラブの評価は、そうしたクラブに実際に接している団体の声を反映すると良いのではないか。そのためには、さらなる実態調査を行い、そうした声を評価指標に反映できるよう工夫してはどうか。

- ・会員数は高齢者の1割に及ぶが、今後の高齢化と人口減少を考えると広域化を促す必要があると考えている。加入者数等の実態を調査して広域化を支援するような補助金の設計も必要でないか。また、活動実態として健康維持のための活動が多いのであれば、しっかりとメンタルヘルスを含めた健康アウトカムについて調査をする必要があるのではないか。

○その他（特筆すべき事項）

「成果目標を定量的に示すことは困難」とあるが本当か。

本事業よりも広い話となるが、地域のつながりを作り、シニアが生活しやすくなるためには、高齢者のみで集まるのではなく、世代を超えた集まりが重要となっている。そうした繋がりがより可能となるよう本事業でも工夫をするとともに、縦割り行政の枠を超えたつながり作りにお金を使って欲しい。